

ITU-T SG13の第5世代移動通信システム(5G)関連対処方針

【基本的な対処方針】

第5世代移動通信システム(5G)の実現を目指す上で、ITU-Tでの検討におけるFuture Networks技術の将来モバイルネットワークへの適用、有線と無線の連携技術等の検討加速、ITU-R等の他の標準化団体や5Gの推進団体との連携等の必要性等について提案するため、**日本寄書を提出**。

(日本寄書のポイント)日本の5Gの研究開発・標準化・アプリケーションは第5世代モバイル推進フォーラム(5GMF)で推進。無線・有線技術が連携したトータルなネットワーク技術に関するITU-T SG13での5Gの検討加速を期待。5G(IMT-2020)検討では、ITU-Rや3GPP等との連携(IMT-2000やIMT-Advancedからの移行への考慮)、ITU-Tが貢献できるネットワーク課題の明確化、ギャップ分析、要求条件・アーキテクチャの整理が必要。

【他国からの寄書提出の状況】(計5件)

各寄書に共通して、ITU-Tでの5G検討が必要、ITU-Rなど他の標準化団体との連携等を提案。5Gの検討体制については、**韓国とチュニジアはFG設置**^{※1}を提案、**中国はGSI設置**^{※2}を提案と差があった。

※1FG(Focus Group)…勧告策定前の基礎調査、情報収集(勧告は策定しない)。ITUメンバー以外でも参加可。1年程度で報告書を取りまとめ。
 ※2GSI(Global Standards Initiative)…複数のSGのラポータ会合が集まって開催されるイベント。勧告案を策定。

	提出者(国名)	寄書名	ポイント
1	KT(韓国)	Proposal of new study of 5G-related standards	—5G関連の標準化検討の開始、 検討項目 (アーキテクチャ、ネットワーク管理、End-end QoS)を提案(検討体制の提案なし)
2	ETRI(韓国)	Rationale and proposal for study of 5G from the fixed network perspective	—5Gに関する FG設置 を提案 —FG設置時の 検討項目 (ユースケース収集・要求条件の検討、5Gのアーキテクチャの中での固定網の役割、固定網部分のアーキテクチャ、固定網を構成する候補技術の収集・特定、ギャップ分析、End-end QoS)、 WG構成 (WG1:ギャップ分析・既存ネットワーク問題点、WG2:サービスシナリオ・要求条件、WG3:ネットワークのアーキテクチャ・フレームワーク、WG4:QoS)等を提案
		DRAFT Terms of Reference for Focus Group on 5G	—5Gに関するFG設置時の ToR (Terms of Reference)として、 検討項目 (同上)、 親SG (SG13)、 活動期間 (24ヶ月)、マイルストーン(6月、9月、12月に会合開催)等を提案
3	China Mobile, China Telecom(中国)	Propose to launch IMT-2020 network standardization work in the form of GSI	—IMT-2020に関する GSI設置 を提案。 —GSIに 参加するSG13課題 (Q2, 3(NGNの進化形におけるSDN, NFV)、Q9(モビリティ管理)、Q10(複数のアクセス(2G, 3G, LTE, WiFiなど)に跨るモビリティ)、Q12(信頼性、スケーラビリティの観点)、Q13(future packet based network(FPBN)のIMT-2020への適用)、Q14(SDNとSDNのモバイル網への適用(SAME))、Q17, 18, 19(クラウド技術の応用))等を列挙
4	Tunisie Telecom(チュニジア)	Proposal to establish a new ITU-T Focus Group on 5G	—5Gに関する FG設置 を提案 — 親SG (SG13)、 FGの利点 (容易に設置可能、幅広い専門家が参加可能、作業方法が柔軟・迅速)等を列挙

【SG13会合(4/20~5/1)での対応】

日本寄書の趣旨に基づき、ITU-Tにおける5G検討がアジアだけに閉じたものにならないよう、欧米も巻き込んだ形を前提とした検討体制を支持。

(参考)ITU-T SG13での5G検討を受けた国内対応としては、本委員会及び技術的・専門的な審議を行うTTCが中心となり、5Gモバイル推進フォーラム(5GMF)の関係者等と連携して対処方針を検討。